

## 第4回 まちづくり

昭和の終わり頃から各地で「まちづくり」の声を聞くようになってきました。私の住む岳温泉は、今から21年前に「ニコニコ共和国」として独立宣言をし、お蔭様で全国的に有名になり、一時は100以上もあった独立国ブームの先頭としてマスコミにも数多く紹介していただきました。観光協会理事者がそれぞれ、自薦他薦を問わずに閣僚となり、今は亡き木村四郎大統領をリーダーに大いに熱い心で、岳温泉のまちづくりを進めてきました。それこそ木村大統領は当時、北海道から沖縄まで「まちおこし」の指導者として、ご自分の仕事を投げ打って「岳温泉」のPRのためにも飛び回っていました。私も、大統領報道官として何度もお供をさせて頂き、なかなか経験の出来ないこともさせて頂き、私自身の基礎を作る上でとても重要な時期となりました。そこで身に付いたことは、事業、イベントもそうであるように、まちづくりも実際にやっている人が楽しくなければ決して成功はしないと考えます。「行き詰まってから何とかしなければ、やらなければもうお手上げ。」というような状況で仕方なく、重い腰を上げようとしても上手くはいかないのではないのでしょうか。

現実にとこのまちを見ても、取り巻く環境が厳しく、暗い雰囲気があるようです。でも、後ろばかり見ているのは、事はプラスの方向に進むわけはありません。顔を合わせれば、笑顔で明るく元気に挨拶を交わし、お互いの立場、気持ちを尊重しながら、笑いの中に話しを進めていけば必ず素晴らしい結果が出てくるように思います。

「まちづくり」って、いったいなんなのでしょうか？看板を統一し、緑を植え、ベンチを設置する。もっと考えれば、建物の屋根の形、色、高さを制限するようなことを思いつかれると思います。そうなのでしょう。そのまちに住む人が自分のまちが好きで、お互いに心を通わせ合い、訪れる人を温かい思いやりでお迎えする心があるまちを作ることではないのでしょうか。「企業は人なり」とよく言われていますが、「まち」も同じだと思います。上下水道設置、電線埋設などが今実施されているところも多いようですが、“ふれあい” “潤い” “あたたかさ”のあるまちになっているのでしょうか。

私は、旅館に生まれ育ち、自分の目指すべき、理想とする旅館を目標に毎日、社員とともにお客様をお迎えしています。数年前より「ハードからソフトに時代に移る中、お客様に“やすらぎ”をお土産にして頂こう」ということを念頭おいてサービスに努めています。

今年の3月に岳温泉景観条例が制定され、福島県知事より認定を受けることが出来ました。そこで初めてまちづくりのスタート地点に立ったと思います。今後、県景観アドバイザーでもある東京大学堀教授のご指導を戴きながら、実際に前に進んでいければと考えています。先月、脚光を浴びています山形・銀山温泉を視察に行ってきたが、大正ロマンの木造建築と山間の小さな温泉場がブームで、連日大勢の観光客が押し寄せています。下水道・電線埋設工事の真っ最中でしたが、共同浴場、足湯、縁台などお客様とのコミュニケーションをとるためのちょっとした材料が印象的でした。

この点を考えの根本に置き、これから皆様に愛される、そして自慢できる温泉街を創造していきたいと思っています。どうぞご声援よろしくお願ひします。

福島県二本松市岳温泉1丁目1番地

庭園の宿 松溪苑

代表取締役社長 佐藤 俊夫